

16

関東管区行政評価局

関東管区行政評価局
第一部長

松田 綱児

昭和57年入省

■ PROFILE *koji matsuda*

昭和57年 4月	行政管理庁採用 九州管区行政監察局
平成16年 7月	行政管理局副管理官
平成18年 7月	大臣官房秘書課秘書専門官
平成19年 7月	行政管理局企画調整課課長補佐
平成20年 4月	行政管理局企画調整課企画官
平成20年 7月	大臣官房秘書課調査官
平成24年 9月	行政評価局総務課政策評価審議室長
平成26年 4月	行政評価局調査官
平成26年 7月	行政評価局評価監視官
平成27年 4月	現職

柔らかい発想が
行政を動かす！

🔊) 行政に風を通すのが仕事です！

行政評価局の仕事は、大きく分けて「調査（評価・監視、政策評価）」と「行政相談」ということとなりますが、いずれも行政の課題を見つけてその改善策を探っていくのが仕事です。ここで重要なのは、「事実」と「議論」です。どういうことが起きているのか、誰がどう困っているのか、その原因はどこにあるのか、まずその「事実」を調べて把握するのが第一歩。そして、どうすれば改善できるのか、それを見出すのが次のステップになりますが、改善策をよりよいものとするために、現場の人たちと議論、局内で議論、そして相手行政機関との間で議論、とさまざまな「議論」を重ねます。「事実」をつかまえ「議論」を深めることができれば、行政に風が通ります。立場の違いこそあれ、みんな行政をよくしたいという思いは同じはずですから、そこに風を通すことができれば必ず解が見つかる、そこでどう頑張るかが私たちの仕事なのです。

🔊) 仕事を動かすのは人です！

本省時代、一度だけ相手省の人を怒鳴りつけたことがあります。勧告の詰めをする前段階で、実地調査で把握した内容のチェックをお願いしたところ、いかげんな回答があり、こちらで確認してみたら先方は中身をろくに見てもいないことがわかったからです。「この項目は〇〇省が調査に協力しなかったと書いてあとは白紙にする！」と啖呵を切って受話器を叩きつけました。上に上げられるものなら上げてみる、と腹をくくっていましたが、すぐに詫言が入り、あとはスムーズに進みました。（自慢話ではありません。もつといいやり方があったと思います。若気の至りです…）

行政を動かすのは、カネやシステムではなく人です。行政が滞っているとき、硬直化しているのは、制度だけでなく、それを使う人もなのです。そこで、いろいろな角度からのアプローチを考え糸口を探さねばなりません（上の例は参考にあらず）。柔軟な発想で、人を、そして行政を動かしましょう。



とある
一週間

● 月曜日

定例幹部会終了後、第一部の連絡会。各担当の業務予定を確認し、必要な指示。

● 火曜日

管内の有識者を集めた行政懇談会に出席。今後の調査テーマ等について意見交換。

● 水曜日

A評価監視官より実施中調査の中間報告を受ける。今後の調査計画を検討。

● 木曜日

第二部長と管区部長会議用資料を打ち合わせ。常時監視、地域計画の課題について整理。

● 金曜日

本省より前期実施調査の追加調査の打診あり。B評価監視官と対応方針案を相談。

Private Time

娘二人は成人したので、最近は妻と二人で出歩くことが増えました。週末はウォーキング程度ですが、美術館めぐりにつきあうことも。昨年は、休みをとって、夏は奈良、秋には京都をたずねました。写真は京都国立博物館の琳派展で。旅先で歩いて疲れたあとは地元のおいしい料理とお酒、これで元気を補充しています。

